

事務所  
TOPIC

## おかげさまで10周年！弊所の歴史(2) 事務所存続と成長への基盤を築いた2年間

現在、『さくマガ！』では弊所の歴史を振り返る企画をお送りしています。今回は第2回ということで、2017年～2018年を振り返ります。2017年～2018年は仕事の環境が大きく変わる、激動の2年間でした。売上こそ大きく増加しませんでしたが、事務所存続と成長への基盤を築いた精神鍛錬の期間だったと考えています。

### 2017年(3年目) 怒涛の営業活動 そしてお客様からのお叱り

従業員：1名(佐久間のみ)  
事務所：ワンルームマンション(2代目事務所)  
年商：800万円程度

この年は前職の野村證券時代の営業経験を活かして営業活動を始動させました。まずは営業先リストの作成です。インターネットで検索し、営業先リストを作成しました。ただ、これでは網羅できなかったため、力技ですが、地元の国道(国道17号、新大宮バイパス)を眺めて、トレーラを見かけるたびに車体に記載のある運送会社名をメモしていました。どこかに外出する際も、道路を通行しているトレーラに全集中し、車体に記載のある運送会社名をひたすらメモしていました。その後、リストを基に、飛び込み営業、電話営業、直筆の手紙送付等により



なんでも一人で行っていた2代目事務所

新規顧客開拓を進め、一定の成果をあげることができました。

しかし、ここで思わぬ問題が生じました。営業活動に専念するあまりに肝心の申請業務が疎かになり、既存のお客様から多くのお叱りを受けてしまいました。今でも当時ご迷惑をかけてしまったお客様には大変申し訳ないことをしてしまったという想いがあります。

挽回するために睡眠時間を3時間程度にして昼夜働きましたが、申請業務と営業業務を1人で行うことには限界がありました。人間としての生活を送れる収入はありましたがあくまで人間としての生活を送れる時間がない年でした。

### 2018年(4年目) 事務所存続の危機と個人事務所からの脱却

従業員：3名  
事務所：2LDKマンション(3代目事務所)  
年商：1,000万円程度

営業活動と申請業務を1人で行うことの限界を迎え、このままではビジネスが成り立たなくなるということまで追いつめられていきました。当時、私は資格の学校(LEC)にて行政書士講座の講師を担当していました。そこで、講座の事務担当であったLECの職員である錦織に「一

好評  
発売中！

全国の書店  
Amazonなどで  
お求めください！



狭いスペースで業務を行っていた



従業員が増え移転した3代目事務所

緒にやろう！」と勧誘。すると快諾してくれました。一方、事務所には大きな売上もなく、十分な給料を支払える状況ではありませんでした。そのため、錦織は昼と深夜は弊所職員、夜はLEC職員という過酷な環境で働いてくれました。

2人体制で申請業務を進めることができるようになったため、これで安心！と思ったのですが……時すでに遅し。申請業務が滞っていた顧客離れが始まり、事務所は存続の危機に立たされました。

資金も枯渇しており、このままで給与が払えない状況です。そこで、繋ぎの運転資金を金融機関に相談し、資金調達を実行。給与振込の3日前に融資してもらった資金(500万円)が着金し、一難を逃れました。あのときのヒヤヒヤ感、着金したときの安堵は今でも忘れられません。

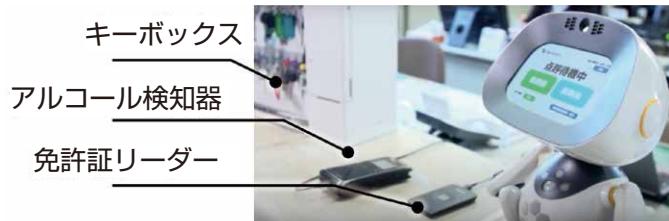
（次号に続く）

# 業務“前”の自動点呼が実現??

運行管理者による点呼業務は安全運行に不可欠ですが、多くの運送事業者にとって負担の大きい課題です。そのなかで自動点呼ロボットが、労働負担軽減や業務効率向上に寄与すると期待されています。本記事ではその最新動向を解説します。

## ロボットによる 自動点呼ってなに?

運行管理者による対面点呼は、多くの運送事業者にとって大きな課題ではないでしょうか。安全運行のために必要な業務ですが、早朝や深夜にトラックを運行する際、運行管理者も出勤しなければならず、労働時間の増大や人件費負担の増加などの問題がありました。このような課題を解決するため、ロボットによる自動点呼の導入が進んでいます。自動点呼とは、運行管理者がその場にいなくても点呼を行える仕組みを指します。



## 今後の自動点呼の動向

令和5(2023)年4月以降、業務“後”的自動点呼が認められ、運行管理者の負担軽減や人手不足の対応策として効果を上げています。さらに、令和7(2025)年4月からは業務“前”的自動点呼も解禁される可能性があります。現在、業務前自動点呼の先行実施が進められており、令和7年3月末までの結果をもとに正式な解禁が判断される予定で

す。現時点では、解禁される見込みが高いと考えられています。

業務前後の自動点呼が実現すれば、運送事業者にとって業務効率の大幅な向上が期待されます。そのため、今年は自動点呼ロボットの導入を検討するタイミングといえるでしょう。ただし、自動点呼が認められるロボットは、国土交通省が定める基準を満たす必要があります。市場に出回っているロボットがすべて対象となるわけではないため、導入を考えている事業者は、対象機器の発表を待つのが賢明です。

弊所では、今後も、自動点呼ロボットに関する最新情報を追いかけ、運送業界に役立つ情報を提供していく予定です。



## 人間の心理を利用した犯罪対策

近年、ビジネスの現場で「ナッジ理論」という言葉を聞くことが多くなりました。ナッジ理論とは、罰則・ルールで行動を強制したりすることなく、行動科学に基づいた小さききっかけで人々の意思決定に影響を与え、行動変容を促す手法です。たとえば、「交通安全に向けて、交差点やカーブに線を少しずつ狭めて描き、ドライバーが自然と減速するよう誘導する」なんて活用もされています。

### 梅田の道路が鮮やかに

大阪梅田のラブホテルや風俗店が密集する一角で、「立ちんぼ」の出現が問題になっているというニュースを耳にし、大阪出張時に現地を訪れ

ました。私が足を運んだのは16時頃で、その時点では立ちんぼの姿は確認できませんでしたが、道路が鮮やかな黄色に塗装され、きれいな絵柄まで貼られていました。調べたところ、これは大阪府警が立ちんぼ対策として実施した施策とのことです。

### ナッジ理論で犯罪防止

この効果を、一般社団法人色彩心理カウンセリング協会代表理事の洞淵美佐緒氏に聞いてみました。すると「イエローは明度が高く目立ちます。明るさや幸せを象徴する色彩心



大阪梅田の立ちんぼスポット

理から、立ちんぼには不向きな印象を与える」とのことです。

ちなみに、洞淵氏は私の義理の母です(笑) 義理の母ながら、この際どいトピックへのコメントを快く引き受けいただきました(笑)



一般社団法人色彩心理カウンセリング協会代表理事の洞淵美佐緒氏

色を活用したナッジ理論は運送業界でも活用ができると思っています。ご興味がある方は洞淵氏のアドバイスを受けてみてもよいかもしれません。

